

●朝。森の中。道に迷った主人公が歩いている。

かーごめ、かごめ

かーごのなかのとりーは  
いついつでやーる

よーあーけーの  
ばーんーに

つーるとかーめが  
すーべったー

うしろのしょうめん  
だーあれ

ん…  
貴方…いつからそこに？

というか  
その格好…  
貴方、外の人よね

…っ  
そうか…  
今年も祭りの時期が…

はあ…っ  
貴方…

知らない道は引き返す  
それくらい常識でしょ？  
雑魚なの？

ええ、見ればわかるでしょ  
怒ってるわよ

ハッキリ言って  
アタシは貴方に  
逢いたくなかったわ

：観光地気分で  
迷い込んだ貴方は  
知らないでしょうけど

ここは普通じゃないの

この里には：鬼がいる

だから：

あ：！  
不審者だー！

っ：

おにーさん  
もしかして：  
こんな森の中で迷子？

うーわあ  
大人なのに  
なっさけなーい

しょうがないからあー

こおり  
氷が里まで案内してあげるよー

んゝ？  
何ゝ？

おにーさん  
どうしたの？

この子って…誰のこと？

誰もいないじゃん

ここには氷とおにーさん  
こおり

二人だけじゃん

おにーさん

情けない上に

変なんだね

ほら、ちゃんと付いてくるんだぞゝ  
情けなくて変なおにーさん♡

●足音。  
こおり 氷に先導されて歩く。

それにしても

おにーさん

変な服着てるねゝ

えゝ？

外ではそういうのが流行ってるの？

ホントかなあゝ？

おにーさんが

似合っていないだけ

じゃないのお？

ふん

●足音が山道から砂利道に変わる。

ほら、見えてきた

まずは

色様のお屋敷に

案内するから

色様は里長だから

ちゃんと敬えよ

こおりー、その不審者だれえ？

変で情けない  
おにーさん♡

へんー？

そーそー

初めまして

へんなおにーさん

初めまして！

こんな幼女に舐められて

恥ずかしくないの？

おにーさん

モテなそうだし

女の子に囲まれてよかったじゃん

ねえ、どこから来たの？

あ、先に色様しきのところ行くから

おにーさんへの質問は後にして

あー、じゃあ仕方ないね

おにーさん

また後でね

● 去っていくモブメスガキ達。

んじゃあ、行くよ

● 場面転換。立派な日本庭園のある屋敷。

● 風鈴の音。

おにーさん

挙動不審すぎ♡

あ：言っとくけどお

色様しき、めっちゃえらい人だから

失礼の無いようにね

入室されたらあ

座ったままでお辞儀しなよ

●足音が近づいてきて襖が開く。

色しき様がいらっしゃいました

●足音。上座に座る音。

ふん…

面を上げよ

客人よ…

よくぞ参った

儂がしきこの里長をしておる色じゃ…

歓迎するぞ

氷、客人の案内あないご苦労であつた

滅相もございません

客人よ、お主の衣食住

及び身の回りの世話は

こちらで手配しよう

隠、かくれ任せてもよいか？

はい…私なんかでよければ…っ

死ぬ気でお世話させていただきますう

それがいいですね

情けないおにーさんは

一人じゃ不安だもんね

た、確かに

お兄さんのお顔…

どこか情けない感じで  
いらっしゃいますね…

二人は儂の従者をしておる

双子の氷こおりと隠かくれじゃ…

何あれば呼ぶといい

さて…

客人、お主は

この里をもう見たか？

そのままの意味じゃ

女…、幼子おさなごしか

目にしておらぬのではないか？

これには訳があつてな

生物とは本来

より優れた血を取り入れることで  
一族を反映させる

しかし閉鎖的な里ではその逆が起きる  
まあ、狭い土地では

結婚相手も限られてくるのも仕方ない

つまり、血が似通うのじゃよ

それは遺伝的には良くないことだな

この里では

男子が産まれにくくなり

そして皆、短命となってしまうた

これが里の現実じゃ

そこで…

一つ

お主に頼みがあるのじゃ

この里の未来の為、滞在中

なるべく多くの女子を

おなご

孕ませほしいのじゃ

外からの客人の血を取り入れて

少しでも人を増やしたい

どうじゃ…

頼まれてはくれぬか？

●「微々たる結果でもよければ」と謙遜する主人公。

あまり自身が

無いと見えるな…

まさか、自らの逸物に

いちもつ

自身が無いのか？

●「いや、そういうわけでは…」と煽られて乗ってしまう主人公。

そうか…

ならば問題ないな

これよりお主は

この里で好きに女子を犯して、孕ませてくれ  
おなご

儂が全て許可しよう

氷、このことを里の者に通達しておけ  
こおり

はゝい

隠、では客人を部屋まで案内せよ  
かくれ

は、はい…っ

あ…そうじゃ

最後に一つ

尋ねておくべきことがあった

とても…とても重要なことじゃ

お主…ここに来るまでに

巫女服を着た女子に逢わなかったかえ？  
おなご

そう…おそらく…

お主を歓迎しないような…

逢って、おらぬか？

ふん…、そうか…

逢っておらぬならばよい

もう行ってよいぞ

はい：それでは

お兄さん：こちらです

●退出し、襖が閉まる音。